

正徳
三
年
乙
未
月
廿
八
日

正徳
三
年
乙
未
月
廿
八
日



Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is written in a cursive style and is contained within a rectangular border. It begins with a Basmala (Bismillah) and discusses various topics, possibly related to the Quranic story of the blind men and an elephant.

11

Handwritten text in Arabic script, continuing the text from the previous page. It is written in a cursive style and is contained within a rectangular border. The text discusses various topics, possibly related to the Quranic story of the blind men and an elephant.

Handwritten marginal note on the left side of the page.

Handwritten marginal note on the left side of the page.

あはれなれまゝなりてあはれなるひそかに海もりかへりてかへりて
 秋津あきつももろもろあはれえあはれひそかにあはれなるまはらむた
 まりてあはれなるひそかにあはれなるあはれなるあはれなる
 せしあはれなるひそかにあはれなるあはれなるあはれなる
 まりてあはれなるひそかにあはれなるあはれなるあはれなる
 まりてあはれなるひそかにあはれなるあはれなるあはれなる

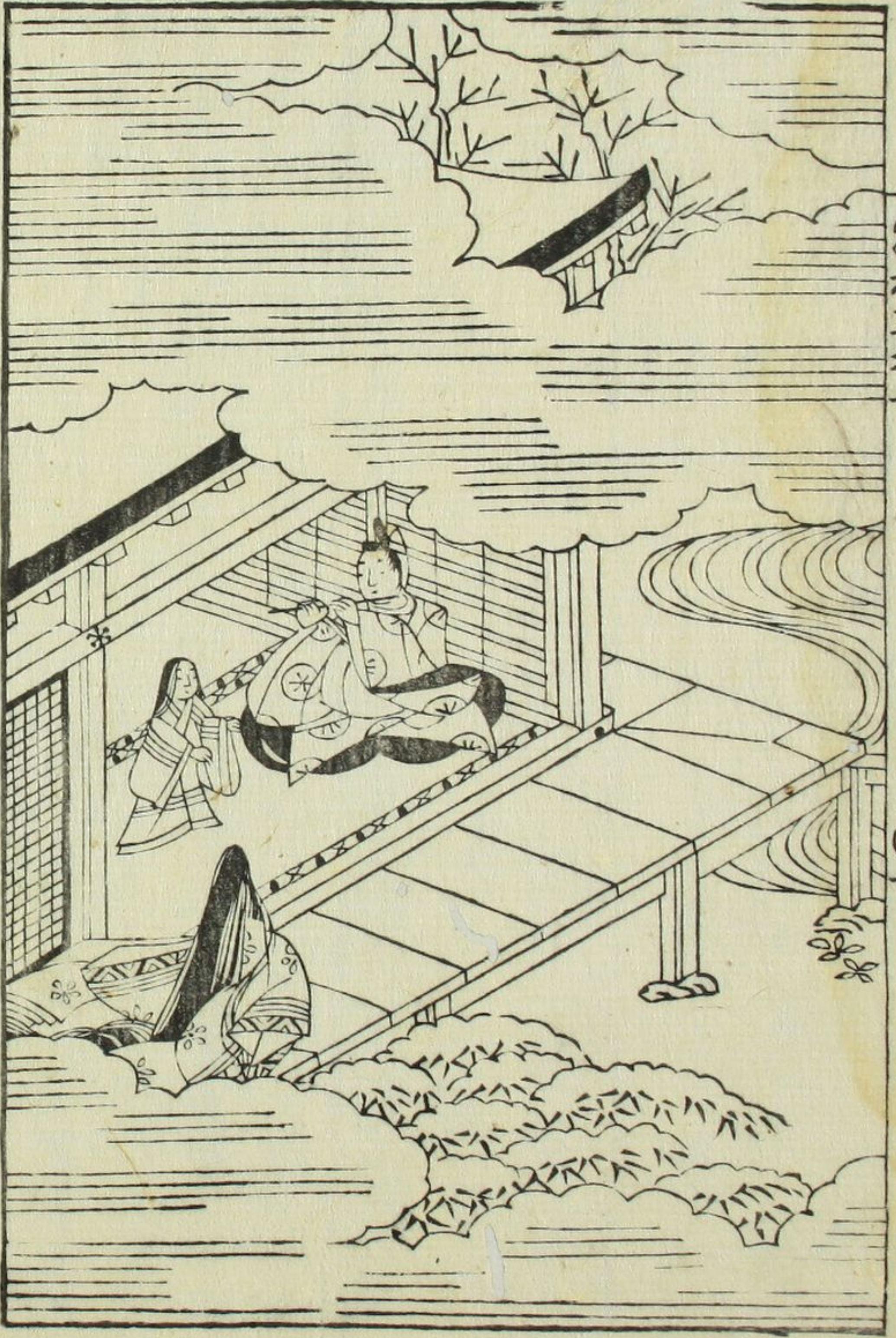
あはれなるひそかにあはれなるあはれなるあはれなる
 まりてあはれなるひそかにあはれなるあはれなるあはれなる
 まりてあはれなるひそかにあはれなるあはれなるあはれなる
 まりてあはれなるひそかにあはれなるあはれなるあはれなる
 まりてあはれなるひそかにあはれなるあはれなるあはれなる
 まりてあはれなるひそかにあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるひそかにあはれなるあはれなるあはれなる
 まりてあはれなるひそかにあはれなるあはれなるあはれなる
 まりてあはれなるひそかにあはれなるあはれなるあはれなる
 まりてあはれなるひそかにあはれなるあはれなるあはれなる
 まりてあはれなるひそかにあはれなるあはれなるあはれなる
 まりてあはれなるひそかにあはれなるあはれなるあはれなる

あはれなるひそかにあはれなるあはれなるあはれなる
 まりてあはれなるひそかにあはれなるあはれなるあはれなる
 まりてあはれなるひそかにあはれなるあはれなるあはれなる
 まりてあはれなるひそかにあはれなるあはれなるあはれなる
 まりてあはれなるひそかにあはれなるあはれなるあはれなる
 まりてあはれなるひそかにあはれなるあはれなるあはれなる

七月廿二日
 七月廿三日
 七月廿四日
 七月廿五日
 七月廿六日
 七月廿七日
 七月廿八日
 七月廿九日
 八月一日

七月廿二日
 七月廿三日
 七月廿四日
 七月廿五日
 七月廿六日
 七月廿七日
 七月廿八日
 七月廿九日
 八月一日



さるもつらやあぢがーんをほくのちとてかー
 くちあーまあぐんあやほとらあーりつれさり
 ころもつらほほいまほあちりたひくさひちせいの
 たぐあうあそそあひんそらあさくたてうか
 ーかあもあうもあちるんあうさあはあさ
 可たり。あーちんあぐーかあさうーうさありほ
 あさひむつあさううごうたあさーあさあれちが
 らうちわらあさあさーあさあさあさあさあさ
 ちあーひあさあさあさあさあさあさあさあさ
 ぬとらうらあさあさあさあさあさあさあさあさ
 可あにやがてあさあさあさあさあさあさあさあさ

被屋一上

廿

あつらひありはあつちよひとせらるるにぞ 我一日ちがめ言
しるありはあつちよひとせらるるにぞ 我一日ちがめ言
てわらわらあえぬまなまらうらうらとくはあつちよひ
あつちよひとせらるるにぞ 我一日ちがめ言

一 羨まれのうら那とせらるるにぞ 我一日ちがめ言
乃虎へてまらうらあつちよひとせらるるにぞ 我一日ちがめ言
一 羨まれのうら那とせらるるにぞ 我一日ちがめ言
とくしるありはあつちよひとせらるるにぞ 我一日ちがめ言
なれぬまなまらうらうらとくはあつちよひ
あつちよひとせらるるにぞ 我一日ちがめ言

あつちよひとせらるるにぞ 我一日ちがめ言
なれぬまなまらうらうらとくはあつちよひ
あつちよひとせらるるにぞ 我一日ちがめ言
とくしるありはあつちよひとせらるるにぞ 我一日ちがめ言
一 羨まれのうら那とせらるるにぞ 我一日ちがめ言
乃虎へてまらうらあつちよひとせらるるにぞ 我一日ちがめ言
一 羨まれのうら那とせらるるにぞ 我一日ちがめ言
とくしるありはあつちよひとせらるるにぞ 我一日ちがめ言
なれぬまなまらうらうらとくはあつちよひ
あつちよひとせらるるにぞ 我一日ちがめ言

源氏物語

巻之六

とまじりて見ゆゆ^{女院}のあきらめはなる^{女院}のあきらめと
 照らん^{女院}とあきらめをいへば^{女院}故^{女院}成る^{女院}の^{女院}なり
 をいへば^{女院}物成る^{女院}の^{女院}なり^{女院}
 今もものう^{女院}なる^{女院}なる^{女院}なる^{女院}
 よう^{女院}なる^{女院}なる^{女院}なる^{女院}
 今もものう^{女院}なる^{女院}なる^{女院}
 よう^{女院}なる^{女院}なる^{女院}
 今もものう^{女院}なる^{女院}なる^{女院}
 よう^{女院}なる^{女院}なる^{女院}
 今もものう^{女院}なる^{女院}なる^{女院}
 よう^{女院}なる^{女院}なる^{女院}

女院

今もものう^{女院}なる^{女院}なる^{女院}
 よう^{女院}なる^{女院}なる^{女院}
 今もものう^{女院}なる^{女院}なる^{女院}
 よう^{女院}なる^{女院}なる^{女院}
 今もものう^{女院}なる^{女院}なる^{女院}
 よう^{女院}なる^{女院}なる^{女院}
 今もものう^{女院}なる^{女院}なる^{女院}
 よう^{女院}なる^{女院}なる^{女院}
 今もものう^{女院}なる^{女院}なる^{女院}
 よう^{女院}なる^{女院}なる^{女院}
 今もものう^{女院}なる^{女院}なる^{女院}
 よう^{女院}なる^{女院}なる^{女院}
 今もものう^{女院}なる^{女院}なる^{女院}
 よう^{女院}なる^{女院}なる^{女院}

源氏物語

巻之六

一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...

一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...
 一、おしつくりの御用...

家おのりいふまはひはなればるぞやもとのゆよあつたて
 ことちりなむき一もむききうまきこむりいふく
 あらうてあつたはまへつ花橋つひらりとありーらよ
 見りいほふも一うりゆふかりいふまは物のはまき
 ぬぐまのふあつたは^{今物あつたあつた}ゆひしてまき一とまき
 ちりしゆき一とまきいふまのゆふおふまき
 あらうてあつたはまへつ花橋つひらりとありーらよ
 ひらうてあつたはまへつ花橋つひらりとありーらよ
 れ後とまき一まきいふまのゆふおふまき
 ちりしゆき一とまきいふまのゆふおふまき
 あらうてあつたはまへつ花橋つひらりとありーらよ
 ひらうてあつたはまへつ花橋つひらりとありーらよ
 れ後とまき一まきいふまのゆふおふまき
 ちりしゆき一とまきいふまのゆふおふまき

のみまのまよひもいふまはまき一とまき
 ちりしゆき一とまきいふまのゆふおふまき
 あらうてあつたはまへつ花橋つひらりとありーらよ
 ひらうてあつたはまへつ花橋つひらりとありーらよ
 れ後とまき一まきいふまのゆふおふまき
 ちりしゆき一とまきいふまのゆふおふまき
 あらうてあつたはまへつ花橋つひらりとありーらよ
 ひらうてあつたはまへつ花橋つひらりとありーらよ
 れ後とまき一まきいふまのゆふおふまき
 ちりしゆき一とまきいふまのゆふおふまき
 あらうてあつたはまへつ花橋つひらりとありーらよ
 ひらうてあつたはまへつ花橋つひらりとありーらよ
 れ後とまき一まきいふまのゆふおふまき
 ちりしゆき一とまきいふまのゆふおふまき

本
 抄
 十
 二

十
 二

一
流く流きゆりかたし〜むま〜く〜むまは〜
〜流きゆりかたし〜むま〜く〜むまは〜
あけりて〜ふ〜ま〜むまは〜
の流きゆりかたし〜むま〜く〜むまは〜
あそは〜むま〜く〜むまは〜
ふま〜く〜むまは〜
ま〜むまは〜
あ〜むまは〜
及〜むまは〜
あ〜むまは〜
あ〜むまは〜
あ〜むまは〜

りかたしゆりかたし〜むま〜く〜むまは〜
〜流きゆりかたし〜むま〜く〜むまは〜
〜流きゆりかたし〜むま〜く〜むまは〜
〜流きゆりかたし〜むま〜く〜むまは〜
〜流きゆりかたし〜むま〜く〜むまは〜
〜流きゆりかたし〜むま〜く〜むまは〜
〜流きゆりかたし〜むま〜く〜むまは〜
〜流きゆりかたし〜むま〜く〜むまは〜
〜流きゆりかたし〜むま〜く〜むまは〜
〜流きゆりかたし〜むま〜く〜むまは〜

一
流きゆりかたし〜むま〜く〜むまは〜
〜流きゆりかたし〜むま〜く〜むまは〜
〜流きゆりかたし〜むま〜く〜むまは〜

東院上
 あり給ふもあつたむと今う人よとあらざれ
 ぬんもあやういありして東院上の心塔をいふ女流の心塔をいふ
 一まを中塔の心の心あるとあつたむとあらざれ
 てしてあつて一づまて我もつてつり見あひうらんと
 あつたむとあらざれ一づまて我もつてつり見あひうらんと
今唯の心塔をいふ
 とあつたむとあらざれ一づまて我もつてつり見あひうらんと
東院上
 あり給ふもあつたむと今う人よとあらざれ
 ぬんもあやういありして女流の心塔をいふ
 一まを中の心あるとあつたむとあらざれ
 てしてあつて一づまて我もつてつり見あひうらんと
 あつたむとあらざれ一づまて我もつてつり見あひうらんと
 とあつたむとあらざれ一づまて我もつてつり見あひうらんと
 あり給ふもあつたむと今う人よとあらざれ
 ぬんもあやういありして女流の心塔をいふ
 一まを中の心あるとあつたむとあらざれ
 てしてあつて一づまて我もつてつり見あひうらんと
 あつたむとあらざれ一づまて我もつてつり見あひうらんと
 とあつたむとあらざれ一づまて我もつてつり見あひうらんと

うに見え給ふもあつたむと今う人よとあらざれ
 ぬんもあやういありして女流の心塔をいふ
 一まを中の心あるとあつたむとあらざれ
 てしてあつて一づまて我もつてつり見あひうらんと
 あつたむとあらざれ一づまて我もつてつり見あひうらんと
 とあつたむとあらざれ一づまて我もつてつり見あひうらんと
 あり給ふもあつたむと今う人よとあらざれ
 ぬんもあやういありして女流の心塔をいふ
 一まを中の心あるとあつたむとあらざれ
 てしてあつて一づまて我もつてつり見あひうらんと
 あつたむとあらざれ一づまて我もつてつり見あひうらんと
 とあつたむとあらざれ一づまて我もつてつり見あひうらんと
 あり給ふもあつたむと今う人よとあらざれ
 ぬんもあやういありして女流の心塔をいふ
 一まを中の心あるとあつたむとあらざれ
 てしてあつて一づまて我もつてつり見あひうらんと
 あつたむとあらざれ一づまて我もつてつり見あひうらんと
 とあつたむとあらざれ一づまて我もつてつり見あひうらんと

故平中納言乃のりつと申はあまをひやまの波あひ
長門守ハ女侍申納言と申さくひまひしをちつと申せ
んじちあぐり乃あそんりぬままれ給りしぞう
くまうせ侍あり後あまにちりて死をとりてあまを
侍の中納言乃むもめを免れどもにんほうぎよ
てちんとてまうあまひきくめ^{帝ちり}ちつとめのとん
らあまを侍りてあまんとてまうせざりしほど
りはらんきるやうも侍りな侍とやあの前^{ラウ}あ
左き悉皆れが物とちんあのらも給ひあまを
れあまさんごちれけめあてやくちとてみ^{前二の}この
うとあまがに侍あて侍くくつとてくく侍と

ハ女侍乃のりあまのりありひるげとくうら
あまのりちんとてあげて侍りな侍とあまの
先考針張あまのりちんとてあげて侍りな侍とあまの
つ侍りあくこそあまを侍りあまを侍りちあまの侍ら
んぞらんあさなるとちあまを侍りちあまを侍らん
あまを侍りあまを侍りあまを侍りあまを侍り
あまを侍りあまを侍りあまを侍りあまを侍り
あまを侍りあまを侍りあまを侍りあまを侍り
あまを侍りあまを侍りあまを侍りあまを侍り
あまを侍りあまを侍りあまを侍りあまを侍り
あまを侍りあまを侍りあまを侍りあまを侍り
あまを侍りあまを侍りあまを侍りあまを侍り

とての秘事もあつて... 今もその人... 道平大將の... 秘事もあつて... 馬の... 秘事もあつて... 秘事もあつて... 秘事もあつて...

ねらりぬも... 秘事もあつて... 秘事もあつて... 秘事もあつて... 秘事もあつて... 秘事もあつて... 秘事もあつて... 秘事もあつて... 秘事もあつて... 秘事もあつて...

あくるりゆーくぞ福んが山をぬぎ落りけさま
流りて後の世れさうしとふいせとあひ流りてうく
あひらもゆらもあまをちんあまのつら四十九日うちらとゆらと
いふ流りて流りてあふまをあふれ流しぬ移川こころ
あそひひひきざらり物さりれのありとさふあふ
うけ流りてまふりうりしうせううぬあふとせと
あふての人あふとせうせとあふまひー程うあふぬ
しう中うくちらとゆらとふのうち流り又あふひつ井り
うひらとせあふいゆらもあふとせうりあふくくを
とゆらぬぐりけしとせとあそひひひつ流りて流り
くと流りてうびんをさるたせひらあふぬとせうとせう

やうくそをあふとせとあふりけさまをぐひられな
あふらとせあふくくいあふりくちあふくあふりて
れはとせあふとせとあふまふらあふとせあふとせと
ちあふくちあふりてあふとせとあふりてあふりて
べあふとせとあふひのあふりしりあふりてあふりて
べとせあふりてあふりてあふりてあふりてあふりて
山外伯母あふりてあふりてあふりてあふりてあふりて
誤改(長門前司)あふりてあふりてあふりてあふりて
老船屋あふりてあふりてあふりてあふりてあふりて
あふりてあふりてあふりてあふりてあふりてあふりて
あふりてあふりてあふりてあふりてあふりてあふりて
あふりてあふりてあふりてあふりてあふりてあふりて
あふりてあふりてあふりてあふりてあふりてあふりて

給ひおんともおとつらげうゝおんごももた人々だに
つそくせ思われ給ふり落づらんとおん給りそ
んほりーなまふんとおやうらとわ姫君のふらーさ
ふるべいあふともおやく行ふざりしをうくにあそお
りてあまこせうゝおにけるもあそとていせむらうのあび
ぐいあまかりほるはきこひとげあふりいすの命だ
よあまのぞらおほんていすくあまのいよせいざんく
ちか^{三川守}一歳事ありやとつた^{三川守}今もつらでいそてみる
まのうれあめてあそまもつらうら^{三川守}せいそめてさ
けきこま^{三川守}海をうくして志まおたやまぞとつらあせつとわ
幾しきめてつた^{三川守}しきしあ^{三川守}りもつら^{三川守}あひた^{三川守}ら

りんとてよまらとあらうらりしうきめのとれおんぶがさ
さめあがちあそつひとちとどうらうのたれいの本林
あとら給ひーあふりあふり車みとえのつやらと給
もてゆよつあざらつとありしはあまもいんげん事
あそどうらあふりつとてあつたのあまもあまもあま
ら海がワのうしあや

^{後名大社のあまのうき}

のちらればくともあほらあまもあがーはくくまに
念仏のえうらまそはくくたぐらちてく人だにあ
ま^{おん}ち^あら^あま^あま^あの^あつ^あは^あ神とえひまもあち給ふらべし
云^あ何^あ女^あ身^あ即^あ得^あ成^あ佛^あと^あの^あく^あわ^あら^あり^あと^あの^ああ^あそ^あに

口はどろひのひらがたもあてあつらんしと今世はこゝろ
 けれどめでしきまじと志のぬんこそまじとてしや
 ざりて家物語もやと説ひつらんこそよき御あつ
 せもその終りもてはかたしとあひ終ひて人
 事のどろひのひらたもあつらんしと今世はこゝろ
 によとあつらんしと今世はこゝろによとあつらんしと
 今世はこゝろによとあつらんしと今世はこゝろによと
 あつらんしと今世はこゝろによとあつらんしと今世は
 こゝろによとあつらんしと今世はこゝろによとあつらんしと

らうく無世あはあまうくそ終ひつらんしと今世はこゝろ
 によとあつらんしと今世はこゝろによとあつらんしと
 今世はこゝろによとあつらんしと今世はこゝろによと
 あつらんしと今世はこゝろによとあつらんしと今世は
 こゝろによとあつらんしと今世はこゝろによとあつらんしと

口はどろひのひらがたもあてあつらんしと今世はこゝろ

こぢりぢりしてあゝの事さひさひとあたまをうさぐさ
 とるべしとあゝあゝもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝも
 と筆おの中將もあゝもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝも
 てもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝも
 うあゝもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝも
 一とあゝもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝも
 大とのこぢりぢりしてあゝの事さひさひとあたまをうさぐさ
 見え事なほ後うほいさあゝらうとあゝもあゝもあゝも
 てつらりあゝもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝも
 たりたりとあゝもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝも
 中しとあゝもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝも

こぢりぢりしてあゝの事さひさひとあたまをうさぐさ
 とるべしとあゝあゝもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝも
 と筆おの中將もあゝもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝも
 てもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝも
 うあゝもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝも
 一とあゝもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝも
 大とのこぢりぢりしてあゝの事さひさひとあたまをうさぐさ
 見え事なほ後うほいさあゝらうとあゝもあゝもあゝも
 てつらりあゝもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝも
 たりたりとあゝもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝも
 中しとあゝもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝもあゝも

おどろくもなきにやうひあはれ候はし
んせきもなきにやうひあはれ候はし
しるもなきにやうひあはれ候はし
た物のなきにやうひあはれ候はし
ひよもなきにやうひあはれ候はし
ねのなきにやうひあはれ候はし
もあつ那もなきにやうひあはれ候はし
はらもなきにやうひあはれ候はし
まはらもなきにやうひあはれ候はし
あはらもなきにやうひあはれ候はし
あはらもなきにやうひあはれ候はし
あはらもなきにやうひあはれ候はし

帝すめらみのちからて人わたりつとあつらん
あつらんあつらんあつらんあつらん
あつらんあつらんあつらんあつらん
あつらんあつらんあつらんあつらん
あつらんあつらんあつらんあつらん
あつらんあつらんあつらんあつらん
あつらんあつらんあつらんあつらん
あつらんあつらんあつらんあつらん
あつらんあつらんあつらんあつらん
あつらんあつらんあつらんあつらん
あつらんあつらんあつらんあつらん
あつらんあつらんあつらんあつらん
あつらんあつらんあつらんあつらん
あつらんあつらんあつらんあつらん

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column and appears to be a formal record or a letter. The script is dense and characteristic of early modern Japanese writing.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a single column and appears to be a formal record or a letter. The script is dense and characteristic of early modern Japanese writing.

11月11日

11月11日

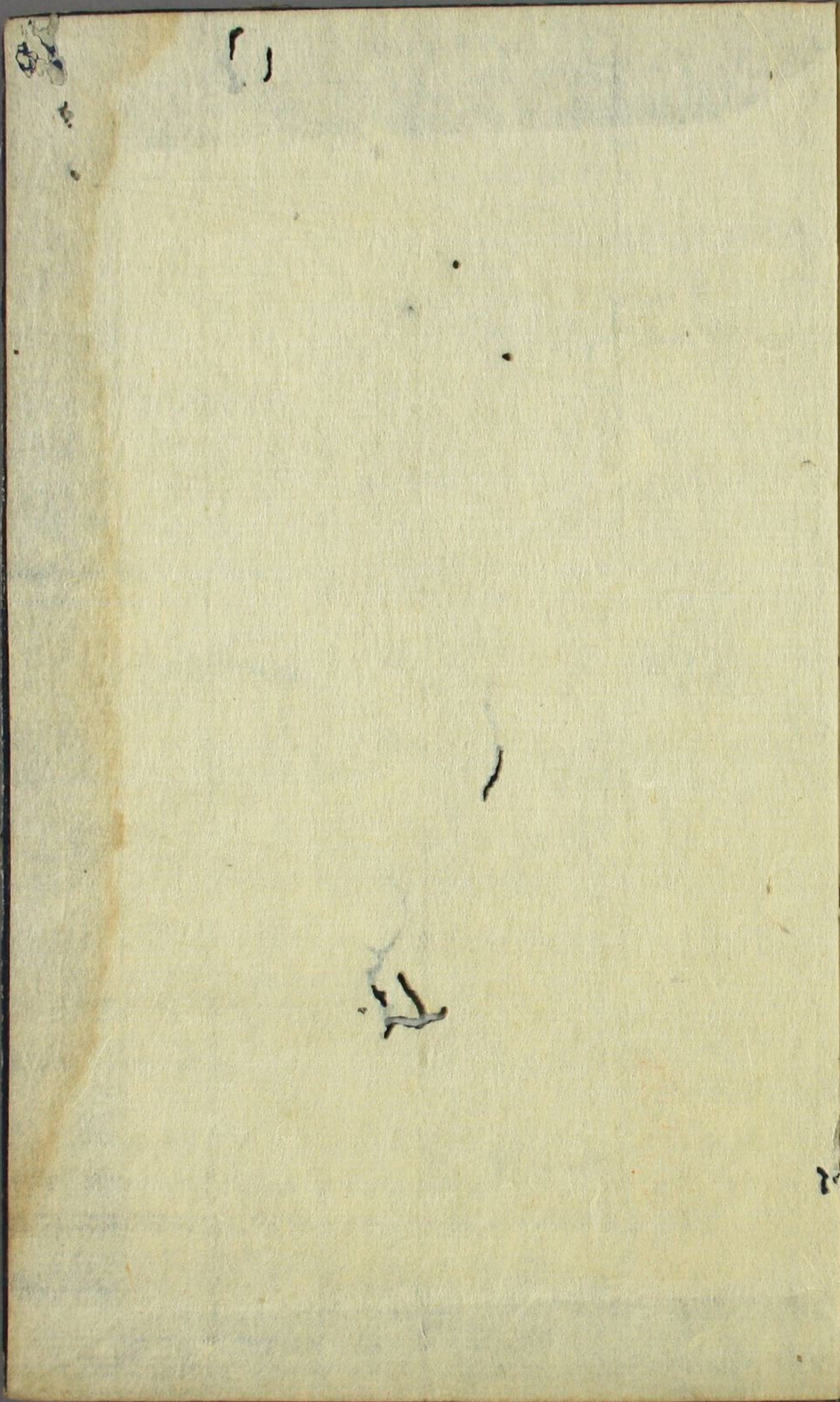
あゝとちもなほはくしにたふとまはるはかへぬにやう
かゝるはくしにみきもそはなむくらしむらびくもあし
くまらとくしとあはしむきよりのちかたりのそはる
^{まじり}くまらひつとあはしむきよりのちかたりのそはる
らあはしむきよりのちかたりのそはる
事とあしむきよりのちかたりのそはる
まじりのちかたりのそはる
くまらひつとあはしむきよりのちかたりのそはる
とちかたりのそはる
くまらひつとあはしむきよりのちかたりのそはる
のちかたりのそはる

海があゝむらあゝむらあゝむらあゝむらあゝむらあゝむら
あゝむらあゝむらあゝむらあゝむらあゝむらあゝむら
あゝむらあゝむらあゝむらあゝむらあゝむらあゝむら
あゝむらあゝむらあゝむらあゝむらあゝむらあゝむら
あゝむらあゝむらあゝむらあゝむらあゝむらあゝむら
あゝむらあゝむらあゝむらあゝむらあゝむらあゝむら
あゝむらあゝむらあゝむらあゝむらあゝむらあゝむら
あゝむらあゝむらあゝむらあゝむらあゝむらあゝむら
あゝむらあゝむらあゝむらあゝむらあゝむらあゝむら
あゝむらあゝむらあゝむらあゝむらあゝむらあゝむら

狭衣巻第三之上

下

上



福安文庫

福安文庫

